

県南教育事務所  
教育情報

# 南風

平成 29 年 2 月 23 日 (木)  
No16【通巻 第 107 号】  
文責： 湊 一徳  
松田 薫

今回は、県南教育事務所管内における社会教育事業について紹介します。

## 中高図書館担当者研修会兼子どもの読書活動推進会議

中高生の更なる読書活動推進のために、「中学校・高等学校図書館担当者等研修会」を実施しました。この研修会は、学校と関係機関との連携体制の促進及び担当者の資質の向上を図ることを目的としています。今年度は、「管内子どもの読書活動推進会議」と併せて開催することで各市町公立図書館職員の方々にも参加していただきました。普段は交流する機会が少ない学校と公立図書館の担当者が一堂に会し、情報共有や今後の取り組みについて話し合いました。公立図書館地区毎のグループで話し合ったため、つながりをつくる機会ともなりました。また、講義・演習では「ビブリオバトル」について学びました。ビブリオバトルは、本の魅力を紹介し合うコミュニケーションゲームです。参加者は、実際に体験することで、そのよさを感じるとともに実践に向けての意欲も高まる様子が見られました。参加者からは、「実際にやってみて、思ったよりも気楽に楽しめるものであると感じました。負担感なく参加しやすい活動として、授業や委員会等の企画に取り入れると面白いと思いました。」「人を通して本を知る、本を通して人を知る」とは、実在的を射た表現だと実際に体験して感じました。本を紹介する先生方の顔が輝いているように見えました。ぜひ、生徒にも体験させ、読書の楽しさを広げたいです。」など、大変参考になったとの声が数多く寄せられました。



(ビブリオバトルの様子)

## 教育振興運動 情報メディアと子供たち



玉川大学 近藤昭一教授

昨年 6 月に、県南教育事務所管内教育振興運動推進研修会を行いました。  
昨年度から、教育振興運動 5 年プランが始まり、全県共通課題として「情報メディアとの上手な付き合い方」について取り組んでいます。  
本年度の研修会では、玉川大学大学院教授である近藤昭一先生に、情報メディアの危険から子供たちを守る方法についての講演をいただきました。

また、事例発表として、奥州市立衣川中学校の「衣中モバイル宣言」と一関の油島市民センターの放課後子ども教室について紹介をしていただきました。奥州市立衣川中学校の発表では、生徒が自主的に情報メディアとの付き合い方について考えたことをきっかけとして、学校全体のルール作りへの取り組みに広げていった事例について紹介していただきました。また、油島市民センターでは、子どもの体験を大切にされた地域の教育課題への取り組みを紹介していただきました。講演や事例発表を通して、教育振興運動の方向性を確認し、教育振興運動への理解を深めることができました。

**衣中モバイル宣言**  
平成 26 年 1 月 1 日  
衣川中学校生徒会

(設定理由) 私たち衣中生徒会は、携帯電話やスマートフォンによる、生活リズムの乱れや家庭学習への悪影響、人間関係のトラブルを防止するため、ここに衣中モバイル宣言を設定します。

宣言① 上記の目的のため、私たちは携帯電話やスマートフォン(以下、モバイルと言う)を持たないように努力します。

宣言② 何らかの理由で購入した場合、上記目的のため、私たちは 21 時以降、モバイルを使用しません。

宣言③ 何らかの理由で購入した場合、上記目的のため、私たちは悪意やからかい、裏切り等、他の人を攻撃する気持ちでモバイルを使用しません。

宣言④ 何らかの理由で購入した場合、悪意での使用を疑ったりした場合は学級担任や生徒指導の先生に報告します。

宣言⑤ 以上宣言①～⑤を守り、良い人間関係を基盤として学習や部活動に全力で取り組む充実した中学校生活を創ります。

## 「子どもの読書活動状況調査」結果から

(「平成 28 年度子どもの読書活動状況調査」11 月実施：岩手県教育委員会)

項目	管内小 5	県小 5	管内中 2	県中 2
1 ヶ月間の平均読書冊数	14.9 冊	13.4 冊	5.0 冊	4.2 冊
1 ヶ月に読んだ本のうち 学校図書館から借りた本の割合	54.3%	56.0%	43.1%	33.3%
1 ヶ月に読んだ本のうち 公立図書館から借りた本の割合	25.7%	22.4%	12.6%	9.5%
1 ヶ月に読んだ本のうち 紹介したいと思った本の割合	19.2%	20.9%	25.0%	31.0%

「平成 28 年度子どもの読書活動状況調査」(全県小中学校 1 クラス抽出)を実施しました。管内の状況をお知らせします。

管内児童生徒はこの調査から、県平均を上回る読書をしていることが窺えます。なかでも、中学生の学校図書館を利用した割合、小中学生の公立図書館を利用した割合が高い結果でした。学校、家庭による読書の奨励、公立図書館の利用促進活動、読み聞かせや図書館環境整備を行ったボランティア、司書の方の尽力等、学校、家庭、地域が連携して推進している成果であると感じています。